［5］随筆を読む［演習］随筆文を読んで考える

「まなび」というのは知識の習得のことではない。人に何かを諭されることだ。口で、ではない。その人のふるまいやまいに諭される、そういう経験のことである。諭されるという言葉が硬ければ、＊ベルクソンにならって、だれかとの出会いのなかでじぶんが①「打ち開かれる」経験だと言ってもいい。学校に行くというのは、家族や近所のおとなではない、「先生」や「守衛さん」といった別のおとなに出会うということである。そのとき、当然のことながら、戸惑いなり違和感なりにまずは襲われる。これまで出会ったことのない人たちだから、どういうかかわり方をしていいのかわからないからだ。

たとえば、わたしが高校に進学し、そこで出会った教師たちは、わたしがそれまでなじんでいたのとはずいぶん異質な肌ざわりの人たちだった。（中略）大学に入って、さらに多くのヘンな教授の存在にふれることになった。そのたびごとに、こんな身の処し方もあるのかと、心の中でった。もちろんあきれること、ばかばかしくなること、なさけなくおもうことも＊累々とあった。（中略）そしてそこから多くを「まなんだ」。

そういう「まなび」がしばしば＊ドラスティックに起こったのは、書物のなかでである。というか②そういうドラスティックな出会いを求めて、いろんなジャンルの本をむさぼり読んだ。それまであたりまえとしてとくに問わなかったじぶんの思考の前提ががらがらと崩れさる、そういう瞬間をもとめて。大学二年生のときにはじめてふれた＊メルロ＝ポンティの言葉でいえば、「おのれ自身の端緒がたえず更新されてゆく経験」というのが、その頃のわたしの読書体験の基調だった。そしてその思想家や文学者たちは、こういう場面ならあの人はどう考え、どうふるまうだろうか、というわたしの問いかけの宛先であるような人たちだった。＊内田さんがどこかで書いておられたと記憶するが、実在の、あるいは書物のなかの人との出会いをきっかけに、それまでより「もっと見晴らしのよい場所に出る」ということが、「まなび」の意味だと、わたしもおもう。「出会い」、この言葉が甘ったるければ「じぶんが打ち砕かれる経験」と言いなおしてもよいが、それは予測できないかたちで起こるものだから、その意味で、「まなび」は学校の管理者によって囲い込まれるはずのないものだ。

ここまでつらつらと書いてきた「学校」での思い出は、まことにありふれたものである。の『坊ちゃん』のほうがはるかに気の利いた＊カリカチュアを描いている。はじめて「異人種」にふれたときの小さな驚き、それをいまも鮮明に憶えているのは、当時の小さな無数の経験のなかでこれらだけはなにがしかの痕跡をいまもわたしにしつづけているからだ。他の出会いはぜんぶ忘れても、この人たちの人としての感触だけは、時とともに意味をずらせながらもじわりじわり膨らんできた。③アイデンティティといえば生涯をつらぬく一本の糸のように変わらないものと考えられることが多いが、わたしは逆で、「じぶんはだれか？」と問うときには、じぶんがこれまで出会い、それを機にじぶんが打ち砕かれてきたその不連続の出来事、そしてじぶんを打ち砕いた相手の名を列挙することのほうがはるかに実情に近いとおもっている。「まなび」は他者をとおして起こるものであり、あの時はわからなかったが今だったらわかるというふうに、長い時間のなかでじっくり＊醸成されてゆくものだからだ。

（鷲田清一『おとなの背中』）

（注）

＊ベルクソン―フランスの哲学者。

＊累々と―重なり合ってたくさんあるさま。

＊ドラスティック―抜本的で、思い切ったさま。

＊メルロ＝ポンティ―フランスの哲学者。

＊内田樹―日本の哲学研究者。

＊カリカチュア―風刺、ユーモアなどを内容とする記述。

＊醸成―ある状態を徐々に作り出すこと。

問1　――線部①とあるが、筆者の経験では、具体的にどのような人たちとの出会いのことを言ったものか。適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。（8点）

ア　高校の異質な肌ざわりの教師たち

イ　家族や近所のおとな

ウ　大学の多くのヘンな教授

エ　学校の管理者　　　　　　　（　　　）（　　　）

問2　――線部②について、

⑴　どのようなことを求めているのか。解答欄に合うように、本文中から四十字で抜き出し、最初と最後の三字を答えなさい。（8点）

〔　　　　　　〕〜〔　　　　　　〕ようなこと。

⑵　このような「出会い」のことを筆者は何と表現しているか。傍線部より後の本文中から十五字以内で抜き出して答えなさい。（8点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問3　――線部③に対する筆者の考えを説明した次の文の空欄に入る適当な語句を、本文中から抜き出して答えなさい。ただし、アは五字以内、イは二字以内とする。（8点×2）

「アイデンティティ」とは、一般的には、生涯にわたり（　ア　）じぶんのことを意味するものだと考えられているが、逆に筆者は長い時間のなかで（　イ　）をとおして徐々に作り出されてゆくじぶんのことだと考えている。

ア＝〔　　　　　　　　　　〕

イ＝〔　　　　〕

問4　筆者は本文で「まなび」とはどのようなものだと言っているか。適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。（10点）

ア　知らなかった知識が蓄積されていくような経験。

イ　人のふるまいや佇まいに諭されるような経験。

ウ　閉ざしていた心が開いて人と通じ合うような経験。

エ　視野が広がりじぶんが生成されていくような経験。

オ　先人をまねて自らの痕跡を遺していくような経験。

（　　　　）（　　　　）

【解答】

問1　ア・ウ　　完解8点

問2　⑴＝それま〜れさる〔ようなこと。〕　　8点

⑵＝じぶんが打ち砕かれる経験（12字）　8点

問3　ア＝変わらない　　イ＝他者　　8点×2

問4　イ・エ　　完解10点